

【地域の顔

～ 4 年間のコラボ教育を振り返って

—第 6 回 COC 運営会議録から—

COC事業では毎年度の活動の評価として、須磨区竜が台地区、菅の台地区の民生委員会会長様、副会長様と連携自治体の北須磨支所保健センターとの意見交換を行う、「運営会議」を開催しています。去る12月20日に最終回の会議を開催しました。今回はCOC事業の継続について、2018年度からどのようにしていくか大学と地域、自治体と合意をとることを目的に開催しました。意見の中で大学として真摯に考えていかないといけないと感じた内容について、以下ピックアップします。

- ・ 学生はヘルスインタビューという形で入っているけれども、学生の目標はこの科目に出て単位をとることであり、インタビューに応じてくれる住民は自分の健康、生活を知ってほしいという思いで語っている。住民と学生との目標の乖離があったように感じた。できればインタビューを通して、対象者に関心をもち、例えば「2ヶ月後にもう一度どのように過ごされているか来ますね」と、その人を追跡していくと住民ももっと健康を意識していくかもしれない。

- ・ 市民公開講座では、COC事業を実施している他大学他学部の学生が話しをしにきてくれていたのに、看護大学の学生はほとんど参加しておらず、がっかりした。もっと学生が積極的に参加するよう仕掛ける必要があったのではないかな。

本学のCOC事業では地域連携教育を目玉として行なってきました。学生の真面目な態度に地域住民の方は好印象を持ってくれており、若い人が出向いてくれると地域も元気になる、という言葉もいただいています。4年間、地域連携教育を行ってきて、大学が学んだことをもとに学生が地域に関心を持ち主体的に参加できる仕組みについて考えていけるようになってほしいです。（聞き手 地域連携教育・研究センター准教授 相原洋子）



2017年度COC 市民公開講座

須磨区民生員会長さん、卒業生、学生（本学、高知大学）によるトークセッション

【地域づくり・健康づくり

～オールドニュータウン（狩場台・糺台）におけるNPOの活動～

NPO 法人コミュニティかりば 専務理事 佐野正明

「NPO法人コミュニティかりば」は「安心して住み続けられる地域づくり」をミッションとして活動し、地域に必要とされ当NPOにできることを一つ一つ実現しています。

まず、近隣センター「かりばプラザ」の空き店舗において「訪問者の休憩所・地域住民の居場所」（月1,000人訪問）を運営するとともに地域の方々の手作り品などを預かり販売する「フリマボックス」（月15万円売上げ）を運営し、出品する方々の生きがいづくりに役立っています。次に、高齢化に伴う生活上の「お困りごとサポート」（電球の交換・庭の手入れ・重い荷物の移動など年間100件ほど）を地域サポーターが有償で行っています。

一昨年6月からは、「かりばプラザ」広場で、毎週火曜日の朝9:00～9:45、地域住民の美容健康と介護予防、交流の場づくりのため「健康太極拳」を催しています。専門インストラクターによる本格的なもので毎回50～60人が参加する地域行事になってきています。「帰り道の足が軽いよ」「体調が良くなった」などの声もたくさん寄せられており、来年度は「健康ストレッチ」のメニューも追加しようと検討を始めているところです。

団塊の世代中心の子育て世代がいつに住宅を求めたニュータウンの当地域では、想像を超えた急激な高齢化・少子化が進み、2025年には高齢化率(65歳以上)が50%を超えます。団塊の世代すべてが後期高齢者となり超高齢化社会に突入するため、医療・介護・福祉改革「地域包括ケアシステム」を進めるという「2025年問題」まであと数年です。当NPOも今後「地域包括ケアシステム」の一翼を何らかの形で担わざるを得ないと考え勉強を始めています。その意味で市看のCOC事業に大きな期待をしているところです。



「コミュニティかりば」が行っている 健康太極拳の様子